

議事録

会議の名称	第5回上牧町学校統合準備委員会（学校教育部会）会議
開催日時	令和7年2月17日 午後2時00分から
開催場所	上牧町役場 西館3階 集会室
出席者 （委員等）	福仲部会長、西尾委員、高畠委員、菊地委員、辻本委員、 安中委員、向井委員、上西委員、高田委員、千川委員
出席者 （事務局等）	教育総務課長、教育総務課長補佐
傍聴の有無	なし
議事録の 作成方法	要点筆記（簡易対話形式）
会議の議事	1. 開会 2. 事前交流の取組内容について 3. その他（連絡事項等） 4. 閉会
会議資料	・学校教育部会資料 5-1：「事前交流に関する取組事例」 ・学校教育部会資料 5-2：「中学校統合に係る事前交流に関するアンケート 調査について」
決定事項	なし
特記事項	なし
次回日程	未定

内容（簡易対話形式）

1. 開会

事務局 定刻により開会する。
なお、本会議は「上牧町審議会等の設置及び運営に関する規則」第10条の規定に基づいて公開とし、会議録作成のためICレコーダーで録音していることについてご了承いただきたい。
それでは、配付資料について確認する。

（事務局が配付資料を確認）

2. 部活動アンケートの結果等について

福仲部会長 それでは案件事項を進める。
まず、学校教育部会資料 5-1：「事前交流に関する取組事例」に関して、事務局から説明をお願いします。

（資料について事務局が説明）

向井委員 今回紹介された資料ではスポーツや運動部活動に関連する取組事例が少なかった。学校の先生同士が集まって、現場の状況に適した交流活動や統合後の学校運営、環境整備等について検討されている事例があったので、それが一番いいと感じた。外部で検討・協議をしたものを学校でやってもらうというよりは、現場の先生が子どもたちに適した取組を考えてやってもらう方がいいと思う。

事務局 学校現場の先生がたの意向は、当然反映したかたちで進めて

いきたいと考えている。このあと説明するアンケートの内容にも関連するが、一度部会で案を検討していただいて、その内容をアンケートに反映し、実現可能な取組や予定している取組についてアンケート調査を通じて把握したいと考えていた。アンケート調査の結果をもとに再度、部会で検討・協議いただき、学校統合準備委員会、教育委員会会議の審議を経て、実施事業を決定するという流れである。

福仲部会長 交流事業と部活動を並行して進めていく必要性についてはどうか。

事務局 今回紹介させていただいている事例のなかにも、部活動に関連するものもあった。中学校の取組なので、部活動を通じた交流も児童・生徒交流に位置づけて検討していただけたらと考えている。

向井委員 ここで検討するのは、小学校の統合のことなのか、中学校の統合のことなのか、それとも両方含めるのか。

事務局 まずは中学校の統合に向けて、令和7年度の取組について優先的に検討していただきたいと考えている。

向井委員 事例のなかで、小学校の取組も紹介されているが、その意図は何か。

事務局 小学校の取組事例のなかでも参考にできるものがあればと考え紹介させていただいている。また、統合のタイミングで中学校に入学する小学生についても、交流事業の対象と考えているので、小学生向けの取組も検討する必要がある。

向井委員 現小学5年生は、統合時点での入学になるので、途中で学校が変わるわけではない。現小学6年生と中学1年生の取組を中心に考えるのがいいのではないか。

事務局 令和8年度に新しい中学校に通うお子さんを対象に、交流事業を検討できればと考えていた。現小学5年生も途中で学校が変わるわけではないが、今まで接点のなかった人間関係が生まれ、環境も変わる。特に上牧第二小学校区の児童生徒は、これまで同じ人間関係のまま、小中学校生活を送っていたところから、今までとは違う環境に身を置くことになるという点で、懸念もあるので、小学生も含めて緩和できるような取組ができればと考えていた。ただし、これはあくまで、事務局の立場で考えていただけなので、部会のほうで検討いただいて、適切だと思われる方向で進めていただければと思う。

向井委員 何年生からを対象と考えているのか。

事務局 令和7年度に取り組む内容について検討いただきたいので、基本的には現小学5年生から現中学1年生を対象と考えているが、その下の年代の児童も最終的には中学校に進学するので、以降も継続して実施できるようなものがより望ましい。

福仲部会長 対象は現小学5年生と6年生、現中学1年生とする。

辻本委員 現小学5年生が部活動に参加できるような取組を実施してはどうか。

事務局 実現可能であれば、いい取組だと思うがいかがか。学校を預か

る立場として、心配な点などはないか。

福仲部会長　　ひとつは上牧中学校の場合、校舎棟の工事が行われている関係で、活動に一部制限が出ていること。また、令和8年度から部活動のあり方が変わる。令和7年度については、従来どおり教員が指導するが、奈良県が進めている部活動地域移行に伴い、令和8年度からは土日祝の指導を教員がしなくなる。それに向けた議論を現在行っているが、まだ形が見えていない状況であること。それに加えて、部活動は全員が入るわけではないので、全体の取組になりうるかという点も気になる。上牧第二中学校区からの通学の方針についても確定していないなかで、移動手段等も踏まえて、配慮をしないといけないと考えているが、その点についても難しいところがある。ちなみに、上牧中学校と上牧第二中学校で共通して設置されている部活動については、頻繁に練習試合を行っている。また、現1年生については、上牧第二中学校の生徒に上牧中学校に来てもらい、ゲーム性のあるスポーツイベント（交流会）の実施を計画している。

安中委員　　保護者のかたが一番心配されているのは通学のことだと思う。他自治体の事例を参考に、自転車の乗り方を指導する取組も必要と考える。

事務局　　自転車通学に関しては、保護者のかたからの要望等もお聞きしており、通学部会のほうでも検討を続けているところである。この学校教育部会では、交流に関する取組について考える場であるので、上牧中学校と上牧第二中学校の生徒が、通学を通じて交流できるような取組を実施できるのであれば検討していただきたいと思う。

上西委員	<p>交流の事例をいろいろ紹介されていたが、だいたいパターン化されている。両方の生徒が仲良くスムーズに統合中学校で過ごせるように、現在学校で行っている行事等のやり方を変えるなど、学校がやりやすい取組を学校間で検討して実施してもらうほうがいいのではないか。</p>
菊地委員	<p>上牧第二小学校に通う児童の保護者としては、上牧第二小学校と上牧中学校区の小学校や児童との交流がないことを懸念している。一方で上牧小学校と上牧第三小学校との交流はあると聞いていて、その点について不安を覚えているので、何らかの取組をしてもらいたい。</p>
西尾委員	<p>小学校現場での経験をお話せらうと、上牧小学校と上牧第三小学校においては、中学校生活を見すえて、6年生の3学期に交流の機会を設けている。また、中学校と小学校との交流機会を設けており、主には中学校生活を紹介する内容となっている。令和8年4月の中学校の統合に向けて、おそらく小学校現場でも、小学校3校の交流・取組について考えられているのではないかと思う。</p>
高畠委員	<p>上牧中学校区では、上牧小学校と上牧第三小学校の6年生を対象に上牧中学校の部活動の見学などを行っているので、現状の中学校生活への移行については特に不安はないが、統合のタイミングで環境が変わるので、そのあたりについて少し心配している。</p>
辻本委員	<p>上牧中学校ではできない交流があれば、上牧第二中学校で実施することを検討してもいいのではないか。</p>
事務局	<p>実際に通うことになる環境に慣れるという意味で、上牧中学</p>

校での交流を中心に考えてはいたが、学校施設ではなくなる上牧第二中学校でしかできない内容もあるかもしれない。

福仲部会長 次に、学校教育部会資料 5-2：「中学校統合に係る事前交流に関するアンケート調査について」に関して、事務局から説明をお願いします。

(資料について事務局が説明)

福仲部会長 アンケートの対象は、管理職のみか。

事務局 案の作成時点では、管理職の先生を対象にすることを想定していたが、部会で協議・検討いただいて、広く意見を募るほうがいいということであれば、その方向で進めていただいていいと考えている。

福仲部会長 ただいま説明があった内容について、何か意見等はないか。

向井委員 このアンケートは、これから実施されるものか。

事務局 これから実施するものである。先ほどの資料でも、スケジュール案を説明させていただいたが、3月にアンケート調査を実施し、その結果を踏まえて、再度部会で協議・検討いただいて、来年度初回の統合準備委員会、教育委員会会議で承認を求める想定である。

向井委員 できることなら全教職員対象のほうがいいと思う。

辻本委員 部活動関係だと校長先生・教頭先生が直接指導されているこ

とはないと思うので、現場の意見を吸い上げるという意味では、全教職員対象でいいと思う。

高田委員 これは教職員だけを対象に実施するアンケートなのか。

事務局 お見込みのとおりである。まず学校として、実現可能なものと実現できないものがあると認識している。部会では、実現可能な取組のなかから選定したいので、学校を対象にアンケートを実施するものである。

高田委員 他市町村の事例を見させてもらったが、この資料を踏まえて、実際に実施したいことを個別に書いてもらったほうがいいと思う。

事務局 今回のアンケート案では資料で紹介した取組事例のなかから参考にしたいものを選択していただくかたちになっているが、個別に書いていただく方法でも特に問題はないと思う。選択式のほうが回答しやすいと思ったので、選択式にしているが、学校現場で実施したい、または実施できる内容を把握することを目的にしているという点で、基本的な趣旨は同じだと思う。

西尾委員 先ほどご紹介させていただいたとおり、現在、上牧中学校と上牧第二中学校の間に計画しているものもあるが、スケジュール調整が非常に難しい。何を目的に交流するのかによって、取組内容も変わってくると思う。統合を見すえたときに、交流の取組としてやっておくべきことについて、確認しながら進めておくというのも大事だと思う。

千川委員 小規模化のデメリットを解消するために統合を行うと思う

が、それは子どもたちのために行うということである。子どもたちのためにするということは、ハード・ソフト両面において対応しないといけないことがたくさんあると思う。統合に関するメリットはいろいろ紹介されているが、デメリットはあまり示されていない。統合したあとのスケールメリットを考えたときに、交流についてきちんとした方針をもって示せば、多種多様な意見を募れるのではないかと。目的がわかっているならば、納得もできると思う。本日テレビでマルチスポーツに関する内容が放送されていたが、世界で活躍するアスリートが子どもころに複数のスポーツに取り組んでいたということが紹介されていた。統合するときのメリットとして謳われているようなことを自ら選んで取り組んだ成果である。子どもたちが選ばないのではないかとということに気をせずに、きちんとした柱があれば、それが子どもたちのメリットにつながるのではないかと。思う。

事務局

統合のメリット・デメリットの話があったが、基本的な方針はすでに計画で示されている。今回協議・検討していただいている児童生徒交流に関しては、統合による環境の変化への対応などのデメリットの部分を解消・緩和するための取組として行うものである。その検討の際に、方針を示して広く募ったほうがいいということだと思うが、令和7年度取組ということもあり、時間的に厳しいので、部会のなかで検討し、案を出していただいて、学校の意見を把握しながら決められたらいいと考えている。

千川委員

統合の取組は、地域コミュニティを巻き込んで進めているものと思う。上牧町のまちづくりに関する評価・点検を毎年度されているが、それに関わるようなかたちで、子どもたちのためにできることを示せばいいのではないかと。思う。

福仲部会長	ひとつ確認であるが、先ほどアンケートを管理職から全教職員に広げるといった話があったが、それは5校ともということではないか。
事務局	基本的には5校とも同じ方法で実施できればと考えている。
福仲部会長	学校運営のために、学校間・教職員同士で協議・検討するというのもあると思うが、それも交流事業のなかに含めるか。
事務局	教職員のかたの交流については、よほど特色のある画期的なものがあれば、部会として案を挙げてもらいたいですが、特になければ、実務的な部分については、学校現場に任せる方向でいいのではないかと思っている。
福仲部会長	まず、アンケートの対象は管理職のみに絞るか、教職員全体に広げるか部会として意見をまとめたいたが、教職員全体に広げるといったことではないか。
西尾委員	アンケートの回答項目によって、対象を絞るべきところと広げるところがあるように思う。誰が答えても同じ回答になる項目もある。
上西委員	現在の取組実績に関する内容は全員に聞かなくてもいいと思うが、どんな取組を、どれくらいの頻度でやるべきか、児童生徒交流に対する考え方については、各教職員の意見を募るほうがいいと思う。もしくは学校ごとに職員会議のなかで話し合いをされて、まとめていくという方法もある。学校としてはどうか。
西尾委員	職員から意見を聴取するのは、フォームを使ってもできるの

で、このアンケート案を活用してもいいと思うが、本当にそれをそのまま事務局に出してもいいのかという懸念もある。

事務局 事務局としても、同じ学校のなかで不整合な回答をもらってしまうと收拾がつかなくなる恐れもあるので、管理職の先生に取りまとめていただくのがいいかと考えていた。また、先ほどご意見があった自由記述になると、回答者側の負担も増える。そうになると意見が出てくるのかどうかもわからないような状況になるので、アンケートとして成立するかそのあたりも少し心配している。

安中委員 何が心配なのか。

事務局 例えば学校でできることと、できないことがあったとして、教職員全員から意見を求めたときに、できないことも含めて回答された場合に、事務局や部会では、できる・できないの判別がつかないなかで、実施する交流の取組を決定することになると、いざ決まってから、やっぱりできないということが起こりうる。学校側からあがってきた意見として、実現不可能な意見も同列に取り扱うことになってしまうことについて心配している。

安中委員 教職員ができないことを意見として出してくることがそもそもあるのか。

福仲部会長 資料のなかで「事業内容の決定のプロセス」が示されているが、4～5月に承認となっている。部会の検討を経て、学校統合準備委員会・教育委員会会議で承認されたものについては、やっていかざるを得ないものになるが、現場としては、承認された取組を実現できるかについては難しい部分もあるだろうと思って

いる。中学校のほうは、統合に向けて現実味も帯びてきており、各セクションで真剣に向き合ってくれていて、考えれば考えるほどいろいろとやらないといけないことが出てきている状況である。できれば、中学校同士の交流については、中学校に任せていただいて3回程度の実施を目標するというのにできないかという考えもある。また、児童との交流については、上牧小学校・上牧第三小学校の小学6年生を対象に「中学校生活紹介の集い」という取組を実施しており、これについては対象を上牧第二小学校の児童に拡大しないといけないと思っている。それ以外のところでは、校外学習などは既に予約をしているものもあり、変更が利かないものもある。上牧第二中学校の場合、学校を閉じていくなかで、大事にしたいこともあるだろうし、交流とは別の行事も令和7年度は取り組むことになると思うので、意識的にも、スケジュール的に難しい部分もあるのではないかと。上牧中学校では、子どもたちが「これからこんなところに行くんだ」というイメージを持ってもらえるような取組を進めていくという方向で、各教員から統一の認識のもとで意見が出てくると思う。適切な実施回数について、部会として意見をまとめていただければ、現場としては、部会での議論を踏まえて適切な回数を実施しているという安心感も生まれる。中学校のほうは、そのように考えているので、アンケートを実施したとしても、懸念するようなことはあまりないと思う。その一方で、小学校に関しては、中学校の統合に対する認識にどうしても温度差があるので、事務局側で懸念されているようなことは起きうると思う。管理職以外の教職員も対象になると現実から離れた意見も出てくるかもしれない。

向井委員 今の話を聞くと、現場のことを一番よくわかっているのは、教職員のかたなので、部会で意見するようなことではないように感じる。

高田委員 私も同感である。報告をもらうだけでいいのではないか。

西尾委員 中学校で実施すると決めた取組について、賛同をいただけると心強いし、何かご意見をいただければ、よりよい取組になると思う。実施することを共有できて、見守っていただいたり、協力していただけたりとさらにありがたい。

福仲部会長 意見をまとめると、中学校のほうは、校長が中心になって、教職員の意見を吸い上げて、調整した上で、この場で提示させていただくということによいか。

(異議なし)

福仲部会長 小学校の取組については、例年実施しているような取組は可能であろうかと思う。ただ、3校で実施する取組ということになると、小学校のほうでも議論・調整をしていただく必要があるので、その方法として、中学校と同じように教職員全員を対象に意見を吸い上げるのか、職員会議で話し合うのか、委員の皆さまはどの方法が適切とお考えか。

向井委員 私の実体験でいうと、小学校時代は距離も離れていてそもそも交流なんてなかったので、そもそも小学校の交流が必要なのか疑問を感じる。統合前の6年生だけするというのも違和感がある。

千川委員 自転車の乗り方についての講習みたいな、交通安全イベントをするのもいいのではないか。

福仲部会長 中学校への通学を見すえて、より安全に通学できるような取組をしたほうが良いという意見でよいか。

事務局 それは交流という要素を考えると、合同で行うイメージなのか。

千川委員 通学だけに特化せずに、普段の日常生活を含めて安全教育につながるのではないかと考える。

各委員 すでに小学校で実施されている。少なくともコロナ前まではやっていた。

安中委員 防災の取組に携わっているが、中学生に対する防災に関する教育をやっていくのもいいと思っている。そもそも、この事前交流は何の目的でやるものなのか。

福仲部会長 資料の最初のところにも書かれていた内容が一義的なものだと思う。統合に向けて児童生徒の心理的負担の軽減を図るために行うものということであるが、これは取り組むべきものであると認識している。2つの中学校でもそれぞれに色合いや規模が異なるので、お互いにいきなり統合となると戸惑う部分も少なからずあるのではないかと思う。統合に向けて、児童生徒の心理的負担の軽減を図ることを目的に、児童生徒のために何をしてあげられるのかという話ができればと考えているが、中学校については、両校長が中心となって考えるということによければ、学校に戻って、職員と共有し、検討したいと思うがいかがか。

(異議なし)

福仲部会長 小学校については、中学校統合に向けての取組として、交通安全や防災の取組を広げるなどの意見が出ていたので、小学校の管理職の先生がたに、校園長会・教頭会を通じて伝えていただきたい。

事務局 承知した。そういうことであれば、このアンケートについては実施しないということによいか。

(異議なし)

3. その他 (連絡事項等)

福仲部会長 それでは、委員又は事務局から何か連絡事項等はあるか。

上西委員 いずれ閉校式についても考えていかないといけない。

事務局 閉校式・イベントに関しては、事業費も要するものになるので、予算化を見すえて、現在調整しているところである。閉校式・イベントについては、学校教育部会で検討する想定をしていないが、議論した方がいいか。

西尾委員 上牧中学校は、開校もあるので大変なのではないか。

福仲部会長 上牧中学校の閉校の取扱いについては、非常に難しい問題である。

事務局 歴史を引き継ぐかどうかの議論をしないといけない。それによって事務的な部分も変わってくる。

福仲部会長 上牧中学校の閉校式・イベントについては、簡素かつ質素なものでいいと思っている。設置者の宣言のみでもいいのではないか。あまり認識もないと思うので、開校式・イベントに資源を集中したほうがいいのではないか。

西尾委員 閉校式・イベントには、地域のかたにも入ってもらいたいと考えているが、普段なかなかないので、難しさを感じている。

事務局 閉校式・イベントに関しては、在籍されているかた、卒業生、地域のかたなどと学校の歴史を振り返りながら、感謝の気持ちを伝え合い、学校とお別れをする行事だと思っている、特色を出すような取組でもないと思うので、部会での検討というよりは、教育委員会と学校で調整して決めていく想定をしていた。

福仲部会長 上牧中学校は校舎を取り壊す前に、卒業生や地域のかたが最後に見ることができる機会を設けたほうがいいのではないかと思っている。物品等の管理の問題もあるが、上牧中学校の場合は、閉校式・イベントの代わりにそういう取組でもいいのではないか。

事務局 承知した。

福仲部会長 それでは、本日の案件事項は以上となるため事務局に進行を移したいと思う。

4. 閉会

事務局 以上をもって第5回上牧町学校統合準備委員会（学校教育部

会) 会議を閉会する。

以上